

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人介護事業部の理念及び事業所理念に沿い、サービスを提供している。	法人の理念を踏まえながら、利用者の心身の状態が変化し重度化されても住み慣れた場所で長く過ごしていただけるように「医療処置のできる方の入居者」を目指している。定期的な全体職員会議を実施することで、日々の振り返りとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染拡大の為、柿や野菜をもらったり、行事へのお誘い等の地域との交流は自粛している。また、地域行事も自粛している為、地域行事の参加も実施していない。	施設は集落の一員として自治会に加入し、広報誌等は回覧板で見てもらっている。コロナ禍もあり、地域行事そのものが自粛されていたこともあり、日常的な関わりは難しい状況だった。今後は事業所として地域とのつきあいを深められるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不定期ではあるが、施設便りを地域回覧で回して頂き、施設での様子や取り組みなどをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスにより施設への面会、立ち入りを自粛しているため、運営推進会議は休止している。2ヶ月に1回、書類にて報告。意見・要望等は電話等で受付している。	運営推進会議の休止に伴い、地域代表者、東蒲施設長、地域包括支援センター等、様々な方に報告書を送付している。会議メンバーとの意見交換はサービス向上に具体的に活かしていくことができるので、運営推進会議の開催を検討する時期にきている事を認識している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルスの為、意見交換を行う機会がなくなっている。不定期だが、行政の窓口にて係の担当職員と意見交換は行っている。	利用者の入居時や退居時等、必要に応じ相談したり、依頼の確認等を行っている。日頃からなんでも気楽に相談できる協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関等の施錠は行っていない。職員も行動制限や身体拘束等に関して施設内研修や職員会議で話し合い、理解した上で業務に当たっている。現状において身体拘束等は行っていない。	3ヶ月に1回、施設内身体拘束適正化委員会が、現状を交えながら実施され、施設内研修も行われている。現在、転倒防止のためセンサーマット等を使用しているが、家族からの意向も踏まえ、職員が見守りを行いながら定期的な見直しが行われている。	施設内研修や職員会議で話し合いを実施し、施設内身体拘束適正化委員会等も開催するなど、身体拘束防止の意識向上を図っている。今後は、研修内容の振り返りを通して現状を把握し、目指しているケアを確認できるよう個々の研修報告書等を設け職員自らが拘束しないケアを考え、実践できるような組織作りが期待される。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内身体拘束適正化委員会や職員会議で話し合い、理解を深めている。	施設内研修で「高齢者虐待防止関連法」について学んでおり職員は理解している。また、職員会議の意見交換は看護師から別の視点も聞かれ、本人の気持ちに寄り添ったケアを継続していく共通認識を持ち対応に努めている。職員間の疲労やストレスが積み重ならないよう個別に相談している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、内部研修で定期的に学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書などを用いてご本人、家族が納得、理解して頂けるよう十分に説明を行い契約の締結を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの為、面会制限をしているので、電話での対応や稀に事業所に来られたご家族様とは、玄関先で対応させて頂いている。	家族との玄関先の面会時や電話等で意見や要望を聞くようにしている。利用者同士の日頃の何気ない会話の中からも意見を汲み取れるようにしている。施設の設備面に関しては会社の方へ相談し反映できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、職員が意見できる環境を整えている。会議も職員主体で進行しており、意見が言いやすい環境となっている。また、事業所で解決できない事は、管理者会議などで上司に意見を上げている。	職員会議はAユニットとBユニット合同で行われ、各ユニットの特徴を把握した上で、情報の共有を図っている。議題を決めて各ユニットでの報告をしたり、後で声を掛け意見を聞く等、職員の意見を引き出すように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者会議にて職員が働きやすい環境作りの為、職員からの意見を下に、就業規則や内規についての改善、変更を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの為、外部・法人内部研修の参加は、資格所得の為の研修以外は、控えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの為、意見交換や交流出来る機会がなかった。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居にあたり、不安に思っている事や心配な事などを十分に傾聴し、安心、納得してもらえるまで何度も説明するよう心掛けています。また、家族との繋がり継続に向けて働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時及び入居後も、グループホームでの生活などの不安や要望はできる限りお聞きし、安心して頂けるよう説明を行っている。施設での生活の様子なども定期的に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、ご本人様、ご家族様への利用説明において、状況等の確認、把握をしながら必要に応じて、他サービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという認識を共有しており、習わしや、郷土料理等を通じて入居者様の知識や経験を学ばして頂いている。入居者様同士の支え合いを阻害しないよう皆で暮らすことの重要性を認識している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居者様の生活の様子などをお便りを送り報告している。コロナウイルスで面会制限を実施している為、近隣の家族の方には出来るだけ受診の付き添いなどをお願いし、関わりを絶やさないように心掛けている。	毎月のお便りは、本人の呟いた言葉を大切に日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。また、医療支援等も記載され家族の安心に繋がっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの為、年間を通して面会制限を掛けさせて頂いているので、面会する機会は少なかった。ご本人の希望があれば、電話で対応させて頂いている。	施設へは、長年、町内の床屋さんが訪問し利用者との馴染みの関係が継続されている。コロナ禍の落ち着きとともに家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所の関係が続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分の生活リズムを一番に考え、無理には進めないが、出来る限り同じ場所、同じ空間で生活して頂けるようにしている。また、入居者様同志が助け合い、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用や契約が終了しても関係を断ち切らず、町内でお会いした時は、現在の状況を聞いたり、継続的な付き合いを大切にしよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望などは出来るだけ実現できるよう配慮している。出来る限りご本人様の思いや希望を聴き、個別サービスに反映している。	利用開始前に前事業所からの情報を得るとともに、本人や家族からこれまでの暮らしぶりや意向の把握に努めている。事前面接時のフェイスシートにより、その人らしく継続した暮らしの希望等が反映されるよう整理されている。また、日常の関わりの中でも本人の意向の把握に努め、職員間で共有し合い、日々のケアに繋げている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、これまでのサービス利用の経過等をご本人、又はご家族に聞き把握に努めている。	入居にあたって暮らし方や周辺環境を把握したり、これまでの生活歴や入居前のサービス利用の経過等の情報をフェイスシートにまとめて職員間で共有している。入居後の暮らしの把握等は、赤字で追記するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が把握できるように、毎日の申し送りや会議にて入居者様のことについて話し合う機会を作り、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人に意見や意向の確認、受診時に主治医や面会時や電話にてご家族様から意見を聞き、また日頃から関わる事が多い職員からも意見を聞き、介護計画を作成するように心掛けている。	日々のケアを通し本人の希望や要望を聞きとり、家族からは、面会時や衣類等持参時、病院受診同行時や電話にて意向等を聞きとり反映させるようにしている。また、新たに得た情報はアセスメントシートに赤字で追記され、「状況評価表」を用い全体を把握し、必要に応じて関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施と結果、気づきや工夫を個別の記録に記入している。情報を共有しながら実践したり、介護計画、サービスの見直し、変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々要望に応じて、職員間で話し合ったり、主治医や看護師に相談や意見を頂き、柔軟な対応ができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、速やかに協力、相談できるように地域資源の把握や、いざという時に相談できる体制を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族が希望される医院や馴染みの医院を優先とし、かかりつけ医と事業所の連携を強化し、適正に対応出来るように心掛けている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。コロナ禍のため受診同行も病院での待ち合わせ等を工夫し家族より協力を得て行っている。また、受診時には、本人の日々の様子状態等が記載されている「健康ファイル」を活用し、情報を提供するとともに医師より受診結果を記載してもらっている。「健康ファイル」内の受診結果は、看護記録に記載され職員間での情報の共有が図られている。また、訪問歯科も本人家族の要望があれば、家族の協力を得ながら、訪問診療や通院も可能であり、かかりつけ医と施設との関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時各ユニットで看護職員を配置しているので、入居者様の健康管理や特変時の対応、指示をお願いできる体制が構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年は、面会制限の為、入院中は面会に行く事が出来なかった。直接は難しかったが、看護師から病状の説明等を受けるようにしている。スムーズに退院、受け入れが出来るように、メディカルソーシャルワーカー等との情報交換や相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員配置により、ご家族様に入居者様の重度化及び終末期についての意見を頂いている。また、今後重度化した場合の相談体制についても話し合いを行い、意見や考えの共有に努めている。	重症化した場合や終末期の支援の在り方や施設の対応等について、本人家族に入居時の早い段階から十分に説明し、法人の看取り同意書にて同意を得ている。また、状態が変化する度に、段階ごとにかかりつけ医と連携を図り、本人、家族と話し合い随時意思を確認し、その都度看取り同意書にて同意を得て看護職員を中心にチームで取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を配置しているので、新たに緊急時の対応や連絡方法など、事業所内で冷静に対応できるようにしている。	事故防止マニュアルを基に看護職員指示の下対応を行っている。夜間等看護職員不在時は、マニュアルにそって連絡対応が行われている。また、事故、転倒、骨折時等の対応等の研修が行われている。新人職員には、AEDの研修も行われ全ての職員が対応できるようにしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、地域の方の協力を区長にお願いしている。年2回の避難訓練を実施している。	非常災害対応マニュアルが整備され、消防隊員の参加を得て年2回の避難訓練が行われている。利用者にも参加してもらい非常口の段差にはスロープを使用し施設外に避難を実施している。夏季の暑い時には、模擬訓練にて車椅子を運ぶ訓練等も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議にて接遇についての話し合いや改善等を全職員で行っている。	本人の気持ちを尊重し、さりげないケアを心がけておりプライバシーに配慮した支援がなされている。介助時等の接遇について職員会議や申し送りにて話し合うなど、日常的に振り返り、改善に向けて取り組んでいる。また、法人介護事業部主導の個人情報の取扱いについてを年1回確認書の見直しを行うなど事業所全体で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるように、職員は傾聴に気をつけており、職員の都合などは押し付けないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、ご本人の意思や希望を確認しながら臨機応変に対応できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望、意向により美容室に行ったり、訪問理容の方に来て頂いている。日常の衣類もご本人がタンスやクローゼットから好きな物を選んで頂いている。入浴時も本人に選んで頂く様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いなど、入居者様1人1人に合わせて提供している。食事の準備や片付けなども、出来るところは出来るだけ手伝って頂いている。	食事は、外部業者の食材を利用している。苦手な物、薬のため食べれない、アレルギーがあり食べることができない物などは、出来合いの物での代替えや施設内で調理された物が提供されている。また、嚥下状態に合わせておかゆ、極刻みなど味わいながら食事ができるように一人ひとりに合わせて提供している。食後は食器ごとにまとめたり、トレーを拭いたり、洗浄後の食器を拭くなど利用者の個々の力を活かし一緒に片付けが行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は業者をお願いしているので、ご利用者の状態に応じた食事内容や食事形態、栄養バランス、塩分などバランスよく提供している。1日の水分量や回数なども看護師の指示のもと、提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず歯磨きの声掛けを行っている。居室でやる方、ホール内の洗面台でやる方など個々に合わせて実施している。歯磨きが不十分な方には介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ自力で排泄して頂けるよう早めに声を掛けたり、定時トイレ誘導など1人ひとりに合わせて支援し、排泄パターンを把握するように心掛けている。	自尊心に配慮し、一人ひとりに合わせた声掛けやそわそわする様子など、本人の状況や習慣に合わせた誘導を行っている。日中はトイレでの排泄、夜間は、ポータブルトイレの使用と自力での排泄を大切に支援も行われている。排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握、排泄状況を確認しケース記録に記載するなど身体状態の把握にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に乳製品などの摂取、体操等に取り組んでおり、出来るだけ便秘のないように排泄パターンの把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間などの設定はされているが、入居者様の希望時間や希望日など、できるだけ入居者様に合わせて入浴の提供を行っている。また、入浴剤などで入浴時もゆっくりに楽しめるようにしている。	入浴は週2回と時間曜日等は決められているが、一番浴が好きな人、ゆっくり入りたい人など希望に沿えるよう支援している。季節に合わせた入浴剤の使用や演歌が好きな方には演歌を歌ってと、一人ひとり楽しい時間になるよう努めている。また、声掛けして拒否がある方は、対応する職員を代え声掛けをしたり、利用者のタイミングに合わせて入浴ができるよう空いた曜日時間に対応している。体調により入浴できない方へは、清拭や足浴、曜日を替えるなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、その時の状況や体調、習慣などで休みたい時には好きな時間に、自由に休息できるよう環境の整備、又は支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護職員が一括して行っているが、薬の目的や副作用についてを職員間で情報を共有できるように日々看護職員との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や能力、力を活かして調理の準備やお茶入れ、配膳、掃除など担当してやっけて頂いている。レクリエーションやドライブなどの外出などで気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの為、買い物や外出等は自粛させて頂いている。	コロナ禍のため年間行事や買い物、外出等、地域との交流なども自粛となり行われていない状況であるが、しかし天気の良い日は、施設敷地内ではあるが、戸外を散歩するなど気分転換に努めている。今後、感染症法の位置づけが変更されることで、家族と一緒に食べに連れていきたいという要望や一人ひとりの希望に沿った外出支援等になるよう、ルール手順等の作成に向けて検討を始めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望、能力、ご家族の同意の下、お金の所持や使えるよう支援している。その他は預かり金として施設側が管理して必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族、兄弟、親戚等に電話を希望された場合は本人に電話を掛けて頂くか、職員が電話を掛け、つながったら本人に替わりお話しをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は出来る限り不快に思われないように、心掛けている。ホール内は、あまりごちゃごちゃしない程度に飾り付けなどを行っている。	共有スペースは、AユニットBユニットとそれぞれ工夫し空間が確保され、歩行器、車いす、杖等使用しても安全に移動できる環境を整えている。ホール壁面には、利用者と一緒に作成した作品が貼られ、季節を感じるができる。施設では、保護犬と猫が飼われており、利用者、職員等のコミュニケーションのきっかけにもなっている。不快や混乱を招くような臭い、音の刺激は無く居心地よく過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング、リビングなどの区切りが無いため、ホール内の席は、仲の良い方と会話出来たり、TVが好きな方は見やすい席にしてりと配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者、ご家族に居室内の飾りつけや、入居時など使い慣れた物や思い出の物も持ってきて頂いたり、居心地良く過ごせるようにお任せしている。また、担当の職員が定期的に、ご利用者と一緒に整理整頓を行っている。	利用者の居室は、ベッド、家具が備えられているが、在宅生活で使い慣れた物の持ち込みが可能となっている。座椅子や衣装ケース、ベッド上には、大切な物を入れるリュック、眼鏡や本、居室壁面には家族より届いた千羽鶴が飾られるなど、家族の協力も得ながら利用者一人ひとりが居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した方や車いすの方、歩行の介助がいる方など、どの入居者様でも生活出来るように安全な環境作りを心掛けている。		